様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ３１ 日現在

機関番号：２３６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１２１３４

研究課題名（和文）倫理的判断能力の獲得を目指した看護学生版倫理的行動尺度の開発と行動基準の検討

研究課題名（英文）The development of "Ethical Competence Scale" on Nursing Care for nursing students and examination of ethical competence benchmark for the students to acquire ethical judgement ability

研究代表者
吉岡　詠美（YOSHIOKA, EMI）

長野県看護大学・看護学部・講師

研究者番号：９０７９０９５７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：看護師は、日々の看護実践の中で急速な医療の進歩や複雑さなどに伴い、様々な倫理的問題に直面している。倫理的行動を獲得しないままに看護者として働くことで、日々遭遇する倫理的問題に対応できない体験が蓄積され、学習性無力感を抱き、バーンアウトや離職につながる可能性がある。
　本研究は、看護学生が看護学実習で経験するケアの倫理的行動を評価できる「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」を開発し、信頼性と妥当性を検証した。さらに、看護学生のケアの倫理的行動のベンチマークと関連要因を明らかにし、科学的かつ効果的な倫理教育を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　今回、「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」を開発したことで、倫理的行動の認知、判断、実践面が可視化され、看護学生が看護学実習で経験するケアの倫理的行動を自己評価することが可能になった。さらに、看護学生のケアの倫理的行動のベンチマークを示すことによって、看護基礎教育から看護継続教育への継続性のある看護倫理教育を提供できるなど、看護教育学の質の向上に寄与する可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：Nurses face many ethical challenges resulting from the rapid progress and complexity of medical care. Ethical incompetence may prevent nurses from responding to ethical problems, which may result in learning helplessness, burnout, and job separation.
This study was to develop a scale that assesses students' ethical competence in nursing practices, and to verify the reliability and validity of the scale. We clarified the benchmark of ethical competence of nursing students and related factors, and presented scientific and effective ethical education.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護学生　倫理的行動　看護倫理教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、医療を取り巻く環境の変化や先進医療の発達に伴い多くの倫理的問題が存在し、看護師は患者の権利や尊厳に関すること等の倫理的問題に対応することが求められている。しかしながら、看護基礎教育課程で十分な倫理的判断能力が獲得されていないままに、看護師として臨床現場で働き始めてしまうと、日々遭遇する倫理的問題へ対応できていないという体験の蓄積によって、学習性無力感を抱き、バーンアウトや離職につながってしまうと考える。看護基礎教育課程のうちから倫理的判断能力を獲得していくことが看護教育における喫緊の課題であると言える。倫理的判断能力が獲得されたか否かを評価するためには、評価ツールが必要となる。

看護倫理に関する自己評価尺度には、看護師と看護教員を対象としたものがあるが、看護学生を対象としたものはみあたらない。看護師や看護教員を対象とした尺度は、質問項目の専門性（看護実践レベル）が高く、看護学実習で遭遇するような実践レベルには該当しない項目も多く、看護学生が倫理的判断能力を評価する自己評価尺度として活用することは難しい。現在の看護基礎教育課程では、看護学生が実践するケアを倫理的な視点で評価するものが示されていないため、看護学生の倫理的行動は曖昧さが残る中で評価され、学生も自らの看護実践能力を発展させていくことに課題を感じている現状がある。

２．研究の目的

本研究は、看護系大学の看護学生が、看護学実習で経験するケアの倫理的行動について評価できる尺度を開発するとともに、看護学生の倫理的判断能力の獲得を目指した看護教育のあり方を検討することを目的とする。

具体的には、1)看護学生および看護者における倫理的行動の概念分析、2)アンケート調査および尺度開発、さらに信頼性・妥当性の検証、3)看護系大学の看護学生の倫理的行動のベンチマークを提示し、看護学生の倫理的判断能力の獲得を目指した看護教育のあり方を検討する。

３．研究の方法

1)看護学生および看護者における倫理的行動の概念分析

Rodgers(2000)の概念分析アプローチ法を活用した。MEDLINE，CINAHL，医学中央雑誌を用いて，キーワードを倫理的行動”ethical competence”で検索し、国内外の既存文献を読み、概念整理を行った。

2)アンケート調査および尺度開発、さらに信頼性・妥当性の検証

調査対象は、研究協力の同意を得た全国の看護系大学および看護専門学校 10 校に在学している最終学年の看護学生 694 名を対象とした．そのうちの 286 名を対象に再テストを行った．調査期間は 2018 年 10 月～2018 年 12 月である．再テストは，1 回目の調査終了後から 3～4 週間後に実施した.

質問紙の構成は，概念分析をもとに作成した「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」原案 72 項目と、併存妥当性を検討するための「看護の専門職的自律性測定尺度（菊池ら，1997)」，個人属性とした。

分析は尺度開発の手順に従い①尺度項目の精選（欠損値，天井効果・床効果，I-T 相関，I-I 相関の確認)，②因子分析（探索的因子分析，確証的因子分析による構成概念の抽出)，

③妥当性の検討（構成概念妥当性，基準関連妥当性の検討），④信頼性の検討（内的整合性，安定性の検討）を行った。

3)看護系大学の看護学生の倫理的行動のベンチマークと関連要因の検討

調査対象は、研究協力が得られた看護系大学 8 校，短期大学 3 校，専門学校 98 校に在学している最終学年の看護学生 4930 名を調査対象とした．調査期間は 2019 年 2 月～2019 年 3 月であった。

質問紙の構成は、開発した「看護学生版倫理的行動尺度」29 項目と、看護倫理の知識に関する 26 項目、看護倫理に関する学習支援に関する 56 項目からなる。

分析は、看護学生の倫理的行動のベンチマークは、「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」5 因子 29 項目の合計得点ならびに各因子の得点を求め，平均（mean）および標準偏差(SD)，最小値（minimum）-最大値(maximum)，60，70，80，90，100 パーセンタイル値を求め，あわせて到達率（=各パーセンタイル値の得点/「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」29 項目の合計得点）を算出した．

また、看護学生のケアの倫理的行動と看護倫理に関する知識および学習支援との関連を検討するため，看護倫理に関する知識（26 項目）と看護学生のケアの倫理的行動に関する学習支援（55 項目）を独立変数，看護学生のケアの倫理的行動（5 因子）を従属変数とした重回帰分析をステップワイズ法で行い，標準回帰係数を求めた．

４．研究成果

1)看護学生および看護者における倫理的行動の概念分析

看護学生および看護師の倫理的行動の概念を明確にし、さらに構成要素を明らかにした。その結果、看護学生および看護師における倫理的行動の概念として【倫理的感受性】【倫理的推論】【倫理的意思決定】【倫理的実践】【倫理的内省】の 5 カテゴリーが明らかになった。構成要素として、先行要件【倫理的問題に関する知識】【倫理的問題に遭遇する機会】の 2 カテゴリー、帰結【看護実践の質の向上】【倫理観の醸成】【看護専門職者としての自律性の向上】の 3 カテゴリーが明らかとなった。カテゴリー間の関連性は、モデル図に提示した（図 1）。

さらに、看護学生および看護師における倫理的行動を、「倫理的問題を解決するための思考過程と看護実践と内省を含む行動特性」と定義した。

看護実践を倫理的な視点で振り返る【倫理的内省】は、自己課題を明確にし、より良い看護実践を深めていく上で、不可欠であると考えられた。

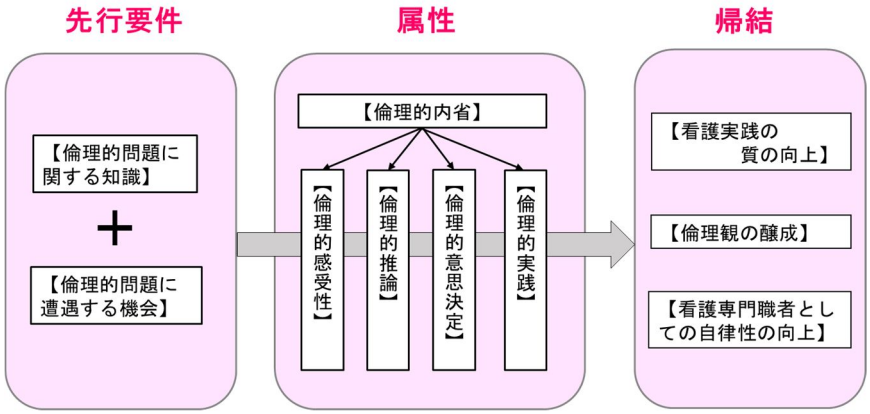

図１　「看護学生および看護者における倫理的行動」のモデル図

2)アンケート調査および尺度開発、さらに信頼性・妥当性の検証

「看護学生のケアの倫理的行動尺度」原案 72 項目を因子分析した結果、【安全なケア提供】【自己決定の尊重】【個人情報の保護】【最善のケア提供】【個人の尊厳尊重】の 5 因子 29 項目が抽出された。モデルの適合度は、GFI=.896、AGFI=.883、CFI=.977、RMSEA=.034 であり、「看護の専門職的自律性測定尺度」との相関は、r=.453 であった。信頼性は、29 項目全体で、α=.932 であり、5 因子それぞれは、α=.837～.887 であった。級内相関は、ICC=.351～.904 であった。「看護学生版ケアの倫理的行動尺度」は、5 因子 29 項目で構成され、この尺度の信頼性と妥当性が確認された。

3)看護学生のケアの倫理的行動のベンチマークと関連要因の検討

看護学生のケアの倫理的行動のベンチマークは、80 パーセンタイル値に設定した。80 パーセンタイル値の合計得点（到達度）は、128 点(88%)であり、【安全なケア提供】は 37 点(92.5%)、【自己決定の尊重】は 28 点(70.0%)、【個人情報の保護】は 23 点(92.0%)、【最善のケア提供】は 23 点(92.0%)、【個人の尊厳尊重】は 13 点(86.7%)であった。看護学生のケアの倫理的行動のベンチマークを提示したことで、看護学生は自らの到達度と全国の看護学生の到達度を比較することが可能となり、自分自身の強みや弱みを理解し、教員や指導者に自己課題を伝えることで、他者支援を受けながらケアの倫理的行動の獲得に向けて自律的に学習していくことが可能となる。さらに、教員は学生の倫理的行動の質を高めるための具体的な知識と学習支援内容を活用した授業設計を行うことが可能となる。

看護学生のケアの倫理的行動と看護倫理に関する知識と学習支援との関連を重回帰分析ステップワイズ法で分析した結果、5 つの看護学生のケアの倫理的行動を向上させるための具体的な知識と学習支援を提示することができた。看護師には患者情報の守秘義務や情報管理などが求められることから、5 つのケアの倫理的行動のうち【安全なケア提供】【自己決定の尊重】【個人情報の保護】を高める上で、「アドバンス・ケア・プランニング」は効果的な知識であることが明らかになった。

他方, 学習支援では 5 つのケアの倫理的行動のうち【自己決定の尊重】【最善なケア提供】【個人の尊厳尊重】を高める上で、学生と倫理的問題に対応できなかった原因を一緒に振り返ることが、効果的な学習支援であることが明らかになった。さらに、実習での効果的な学習支援として、【安全なケア提供】【自己決定の尊重】を高める上で、教員が倫理的問題の分析過程でのアドバイスすること、【自己決定の尊重】【個人情報の保護】を高める上で、指導者が迅速に支援すること、【個人情報の保護】【最善なケア提供】【個人の尊厳尊重】を高める上で、学生間で内省をすることが効果的な学習支援であることが明らかになった。

今回、看護学生の 5 つのケアの倫理的行動と看護倫理に関する知識と学習支援との関連を重回帰分析ステップワイズ法で分析した結果、ケアの倫理的行動を向上させるための具体的な知識および学習支援を提示することができた。教員は、看護倫理に関する知識と学習支援と関連を示した項目を看護基礎教育における看護倫理教育の授業設計の見直しに役立てることで、効果的かつ科学的な看護倫理教育を提供することが可能になることが示唆された。

＜引用文献＞

菊池昭江,原田唯司(1997)．看護の専門職的自律性の測定に関する一研究．静岡大学教育学部研究報告，47，241-254.

Rodgers B. L., Knafl K. A.，(2000)．Concept development in nursing: Foundations, Techniques, and applications, 2nd ed.Philadelphia, Saunders.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 吉岡詠美　金子さゆり	４．巻 6
２．論文標題 The Current Status of Ethical Judgment Capacity and Ethical Training Regarding Continuous Nursing Education	５．発行年 2019年
３．雑誌名 International Journal of Nursing & Clinical Practices	６．最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.15344/2394-4978/2019/305	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko	４．巻 9
２．論文標題 Concept Analysis of Ethical Competence of Nursing Students and Nurses	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Open Journal of Nursing	６．最初と最後の頁 1173-1187
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4236/ojn.2019.911086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko	４．巻 9
２．論文標題 The Acquisition of Ethical Competence in Basic Education and the Present State of Ethics Education	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Open Journal of Nursing	６．最初と最後の頁 676-686
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.4236/ojn.2019.97052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉岡詠美，金子さゆり	４．巻 39
２．論文標題 看護学生におけるケアの倫理的行動尺度の開発	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本看護科学学会誌	６．最初と最後の頁 316-325
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.5630/jans.39.316	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

1．発表者名 吉岡詠美　金子さゆり
2．発表標題 看護学生および看護師の倫理的行動の概念分析
3．学会等名 日本看護学教育学会第28回学術集会
4．発表年 2018年

1．発表者名 吉岡詠美　金子さゆり
2．発表標題 基礎教育と継続教育における倫理的判断能力の獲得レベルと倫理教育の現状
3．学会等名 日本看護科学学会
4．発表年 2017年

1．発表者名 吉岡詠美　金子さゆり
2．発表標題 看護学生および看護師における倫理的行動
3．学会等名 日本看護学教育学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 吉岡詠美　金子さゆり
2．発表標題 看護学生の倫理的行動の行動基準と倫理的行動との関連要因の検討
3．学会等名 日本看護科学学会
4．発表年 2019年

１．発表者名 Emi Yoshioka, Sayuri Kaneko
２．発表標題 Relationship between nursing students' ethical competence and learning support Provided for nursing practice
３．学会等名 The 6th WANS（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	金子　さゆり (SAYURI KANEKO) (50463774)	長野県看護大学・看護学部・教授 (23601)	